

第 1 回学校運営協議会 議事録

1. 校長挨拶

住吉高校は今年、定員 280 名に対して 370 名余り受験してもらい期待の大きさと責任を感じている。本年度は学校の環境整備として、校舎周りのブロック塀を改修予定。また、創立 100 周年の事前事業として、全教室に電子黒板を本年度中に導入する予定。

2. 委員紹介

教頭より委員の紹介。

副会長の退任に伴い、新副会長に高島委員を選出。大塚会長より中高大の連携について

3. 今年度の取組みについて

(1) 学校経営計画

- ・昨年度の第 3 回学校運営協議会において次年度の学校経営計画の承認を得た。中期目標などにおいては多少変更を加え、各部署の担当箇所を明確にするとともに、できるかぎり数値目標をあげている。
- ・授業力改善・向上の取り組みの一つとして、阪南中学校との相互授業見学を学習指導 P T を中心に今年も計画を進めたい。
- ・100 周年の事前事業として、電子黒板を全教室に導入し、アクティブラーニング型の授業の推進を図る。それに伴い、授業アンケートの項目を変更した。進路においては、国公立大学に現役で 70 名の合格を目標にしている。
- ・SSH 指定 3 期目の 2 年目であり、来年の中間評価に向けて、今年度の取組が大変重要であることから、SSH コアチームを中心に、研究開発委員をどう動かしていくかを念頭に置き全校体制での取り組みを進めている。
- ・本校では、新入試に向けては、TOEFL・TOEIC・GTEC・英検の取組は以前より始めている。
- ・遅刻については、授業の質を上げ、授業参加の意欲を高めることで、遅刻、欠席ともに減らしたい。
- ・住高支援ネットワークをさらに活用したい。

(2) 国際文化科の取り組み

TOEFL の授業では、骨太の英語力養成事業が終了したことで予算がなくなったが、引き続き 4 技能の向上をめざす授業を継続していく。新たな試みとして、英語検定外部入試の対策として、英検の試験を校内で実施した。また、例年実施している土曜日の TOEIC 講習では、1 年生の参加者が増加している。7 年前から実施している GTEC については資料に示したとおり。

＜国際交流の予定＞

- ・例年どおり、台湾の姉妹校である中山女子高級中学との交流をはじめ 8 事業を実施する。その中で、7 年ぶりに韓国研修を復活し、姉妹校であるチョンダム高校と交流を図る。長期留学生も例年通り、1 年生の国際文化科は各クラスに 1 人は入っている。
- ・ユネスコスクールとしては、ネットワークで学びあう活動をしていく。今年は関西だけでなく北陸の生徒とも交流する予定。

(3) 総合科学科及びSSHの取り組み

- ・前回の中間評価の反省をもとに、積極的に課題研究に取り組める生徒を育てることを目標にしている。
- ・総合科学科の行事である実験合宿もその主旨に従って実施できるように内容を組み直し、実験合宿の中で探究活動・表現活動を充実させることができるようにしたい。
- ・英語指導については、外国語科教員にも入ってもらい、ポスター発表の原稿を添削してもらう。(Super Science Class の充実)
- ・SS 科学Ⅲ選択者をどのようにして増やすかが課題。
- ・SSH 海外研修については、韓国や台湾での実施を検討中。

(4) 進路指導状況

- ・国公立大学の合格者数は増加してきた。ただ、進路指導に割く時間をいかに確保するかが問題。
- ・難関私大合格者数が定員厳格化の影響もあって減ってきている。以前行っていた難関私大説明会の復活も考えている。
- ・高校入学後の学習が大切であることについて、ベネッセの担当者に講演をしてもらうなど意識改革を図っている。
- ・校内模試では、具体的な目標設定をさせて臨ませている。また振り返りシートの記入・回収もしている。

(5) 生活指導について

- ・遅刻が多い生徒には、「何故か」を考えさせる指導から始めている。
- ・情報収集しながら声をかけを行い、生徒と向き合って話しをするなど、指導の機会を増やす。
- ・交通安全指導、身だしなみ、携帯電話など現状と指導も資料に示している。

(6) 住吉改革委員会

- ・学校教育自己診断で見つかったさまざまな課題に対して、4つのPT（学習指導、ICT推進、行事検討、広報）がそれぞれが解決策、改善策を提案し、全校体制で取り組んでもらっている。
- ・比較的若い教員を中心に、今年は1ヶ月ほど早く開始している。

(7) 教科書選定及び授業アンケートの項目変更について

- ・教科書の採択に関しては資料にあるように慎重に選定しているところである。
- ・授業アンケートの項目は、生徒が考えたり、相談して発表する機会を持っているかなどアクティブラーニングに沿うように変更している。

4. 質疑・協議 (Q 質問 → 回答 B 講評)

Q 遅刻は減ってきたようだが、どういう取り組みを行ったことで減ってきたのか。

→規定回数を超えた者について早朝登校などの指導をしている。校門に立って挨拶運動などもしている。

Q 2500の遅刻数は多いのか。

→多い。阿部野区他高校では、始業時間を早くしたり、朝の読書を導入するなどし1500程

度に抑えている。

Q スマホの使い過ぎで起きられない生徒はいないのか。メンタル面で悩んでいる生徒に対する指導援助はあるのか。

→教育相談という部署で情報共有及び支援を行っている。

→遅刻については、生徒自らが原因や改善策を考えるよう指導をしている。

〈自転車指導全般について〉

Q 自転車通学者は、どのくらい遠いところから来ているのか。

→遠いところでは堺の北部くらいか。通学距離の規定はない。

→交通安全指導はやっているが、ルール、マナーの悪い生徒はいる。

Q ぎりぎりに焦ってやって来て事故につながっているかもしれないのでそのような生徒は指導しないといけないのでは。

→校門で見ていると、自転車通学の生徒が急いできている様子はない。

B 小学生は、「手をつないでおく」、中学生は、「目を光らせる」、高校生は、「見守ればよい」という時代ではなくなっている。昔に比べてかなり若い高校生が多い。きちんとやってやらないといけないようだ。「不注意で事故を起こしたらとんでもない責任を負わなければならない」と大人としての責任を丁寧に教えてやらねばならないだろう。また、上町線の車内で、試験前など一生懸命勉強を頑張っている生徒もいるが、ただ、電車を降りた後、平気で電車の前を横切るなど、事故に巻き込まれるかもしれない。そういう注意も必要では。

Q ICT、アクティブラーニングを挙げているが、スキルをつけるすべは

→チョークと板書でもアクティブラーニングはできる。ただ、若手教員はICTを使った方法を大学でやってきたので、その技術を他の先生も見学し共有できればよい。

Q 授業アンケートの設問を変更したというが大丈夫か？

→校内で検討し、公約数的項目とした。

Q 海外の共同研究が気になるが、ハワイ研修が廃案になる代わりに、台湾との共同研究の復活はどうか。

→海外研修でCO₂の測定をするなど共同研究は可能と思うが、行き来がどのくらいできるかが問題。

B 学校の特性を活かす、つまり、SSHと国際という住吉高校の特徴が生かせればよい。

B 中学との連携は、高校生にとっても有効である。もちろん、中学の方はすごくありがたい。いい形で連携させてもらいたい。

Q PTAの参加者数を増やすのは？

→授業を見に来てもらう人数を増やしたい。1年生の保護者は比較的多く来ていただいている。

5. 今後の予定

第2回は10月下旬 第3回は2月下旬